

# 避難について

## 避難時の行動と心得

### 正確な情報収集と早めの行動を心がけましょう。

テレビ・ラジオ・インターネットで最新の気象情報や避難情報などの災害情報を入手しましょう。危険を感じたら早めの行動を心がけましょう。火元等の確認も忘れずに。



### お年寄りなどの避難に協力をしましょう。

お年寄りや子供、病人、障がいのある人は、早めの避難が必要です。近所のお年寄りや子供、病人、障がいのある人などの避難に協力しましょう。



### 動きやすい服装、2人以上での避難をしましょう。

避難するときは、動きやすい服装で、2人以上での行動を心がけましょう。その際には、さぐり棒(杖など)を持ち、側溝や排水路、マンホールに転落しないように注意しましょう。



### 避難の呼びかけに注意しましょう。

危険が予想される状況となった場合には、市役所や消防団などから避難の呼びかけをすることがあります。避難の呼びかけがあった場合には、それに従いましょう。



## 要配慮者への支援

※要配慮者とは、高齢者・障がい者・乳幼児等、災害時において特に配慮を要する方です。災害に対して、高齢者や障がいのある方などは、

- 身に迫った危険を察知しにくい
- 助けを求めたり、助けてほしい内容を伝えにくい
- すぐに身を守る行動をとりにくい



ご自身が備えておくことはもちろんですが、地域ぐるみの温かい支援が必要です。

### 要配慮者との交流を密にする

日頃から近隣に住む要配慮者とあいさつを交わすなど交流を深めておく。また、プライバシーや本人の意思などに配慮しながら、支援のニーズを聞いておく。

### 要配慮者の視点で

#### まちなかを点検する

避難路は車いすで通れるか、障害物がないかなど、要配慮者を安全に避難誘導できるよう、確認する。

### 要配慮者を把握する

地域において、要配慮者の把握、情報共有等を進めておく。

### 防災訓練への参加を促す

要配慮者の方に防災訓練に参加してもらおう。その際に、安否確認や避難誘導など、具体的な支援体制を決めておく。



# 土砂災害等の情報入手方法

心得編

## 鹿児島県のホームページから土砂災害警戒区域等が確認できます。

土砂災害が起きるおそれのある危険区域や土砂災害が起きた時に被害を受けるおそれのある範囲確認することができます。

鹿児島県のホームページ  
(危機管理・防災)



QRコード

<http://www.pref.kagoshima.jp/bosai/index.html>

**STEP①**  
上段【一般・県民の方々】をクリック

**STEP②**  
中段【土砂災害警戒区域等の情報】をクリック

**STEP③**  
【土砂災害警戒区域等マップ】をクリック

**STEP④**  
【同意する】をクリック

お住いの地域の土砂災害警戒区域等をご確認ください。

平常時より、土砂災害のおそれのある箇所を把握して置くことは「自らの命を守る」うえで重要です。

## 降雨状況等の確認

鹿児島県河川砂防情報システムで、県内各地の降水量、土砂災害危険指標などの情報を確認することができます。※下のQRコードを読み込むことで手軽にアドレスを取得できます。

パソコン版



QRコード

<http://www3.doboku-bousai.pref.kagoshima.jp/>

携帯電話版



QRコード

<http://www3.doboku-bousai.pref.kagoshima.jp/mobile/>

スマートフォン版



QRコード

<http://www3.doboku-bousai.pref.kagoshima.jp/smart/>

## 一般的な入手方法について

平成19年10月1日から、準備の出来た放送局から順次、テレビ・ラジオにて緊急地震速報を放送しています。

日本放送協会(NHK)では、気象庁が緊急地震速報(警報)を発表した際に、文字や音声などにより放送します。

この放送は、全国のどの地域を対象とした緊急地震速報(警報)であっても、全国すべての地域で放送されます。

## テレビやラジオによる放送

NHKのホームページ  
(緊急地震速報)



QRコード

<https://www.nhk.or.jp/sonae/bousai/>



# 大雨、洪水災害について

## 浸水の目安と心得



### 浸水深 3.0m 以上のエリア

### 浸水深 5.0m 以上のエリア

- 2階床面が浸水する2階建て住宅では、避難が遅れると危険な状況に陥るため、住民は避難情報のみならず、出水時の水位情報等にも注意し、必ず避難所等の安全な場所に避難
- 高い建物の住民でも、浸水深が深く、水が退くのに時間を要することが想定されるため、事前に避難所等の安全な場所に避難

### 浸水深 0.5m ~ 3.0m 未満のエリア

- 平屋住宅または集合住宅 1 階の住民は、1階床上浸水になり、避難が遅れると危険な状況に陥るため、避難情報のみならず、出水時の水位情報等にも注意し、必ず避難所等の安全な場所に避難
- 2階以上に居室を有する住民は、浸水が始まってからの避難は水深0.5mでも非常に危険なため、避難が遅れた場合は、無理をせず自宅2階等に待避、ただし、浸水が長時間継続した場合や孤立した場合の問題点について認識しておくことが必要

### 浸水深 0.5m 未満のエリア

- 避難が遅れた場合は自宅上層階で待避、ただし、浸水が長時間継続した場合や孤立した場合の問題点について認識しておくことが必要

## 被害想定

### 大雨・台風では、どのような災害が起こるのか

7月から10月にかけては日本に接近・上陸する台風が多くなり、大雨、洪水、暴風、高波、高潮などをもたらします。また、川の氾濫や土石流、がけ崩れ、地すべりなどが発生しやすく、人々の生活や生命が脅かされるような自然災害が度々発生しています。

### 平成30年7月豪雨の被害状況 (内閣府防災より)

6月28日から7月8日までの総降水量が四国地方で1800ミリ、東海地方で1200ミリを超えるところがあるなど、7月の月降水量平年値の2~4倍となる大雨となったところがあった。また、九州北部、四国、中国、近畿、東海、北海道地方の多くの観測地点で24、48、72時間降水量の値が観測史上第1位となるなど、広い範囲における長時間の記録的な大雨となった。これらの影響で、河川の氾濫、浸水害、土砂災害等が発生し、死者、行方不明者が多数となる甚大な災害となった。また、全国各地で断水や電話の不通等ライフラインに被害が発生したほか、鉄道の運休等の交通障害が発生した。



# 土砂災害について

## 土砂災害の前兆

土砂災害が発生するときには、何らかの前兆現象が現われることがあります。下に挙げたものは主な前兆現象です。こうした前兆現象に気づいたら、周囲の人にも知らせ、いち早く安全な場所に避難することが大事です。



山鳴りがする。



雨が降り続けているのに、川の水位が下がる。



川の水が濁り、流木が混ざり始める。



斜面から水が噴き出す。



沢や井戸の水が濁る。



地面にひび割れができる。



小石がパラパラ落ちてくる。



## 覚えておこう！3つのポイント



雨に注意しましょう

1時間に20ミリ以上、または降り始めてから100ミリの降雨量になったら注意が必要です。



逃げ方を覚えましょう

土石流は速度が速いため、土砂の流れる方向に対して直角に逃げるようにしましょう。



避難場所を決めておきましょう

日頃から家族全員で避難場所や避難する道順を決めておきましょう。



# 地震災害について

## 地震対応

### 地震には予兆がありません。

地震は台風や大雨と違って事前に、いつどこで起こるのか予想することができません。いつどこで起きても地震に備える心と準備が必要です。

自分だけは大丈夫と過信していませんか？過去大きな地震にあった記憶が無い地域であっても、活断層は全国にあり、いつ大地震が起きてもおかしくありません。日本に地震で安全な場所はどこにもないと思っていたほうがいいでしょう。

## 地震速報

※震度3以上を観測した地域名(全国を188地域に区分)と地震の揺れの検知時刻の情報をお知らせする速報です。

### 地震発生時の行動

#### 地震発生

#### まず、身の安全

- ・机の下に入る。
- ・クッション、雑誌などで頭を保護する。
- ・家具から離れる。
- ・ガラス面から離れる。

大きな揺れを感じたり、緊急地震速報を受けたら、まず身を守り、揺れがおさまるまで待ちましょう。

普段から家の中の安全チェックをしましょう。住宅用火災警報器も設置しておきましょう。



#### 2分 〜 5分

#### 大揺れがおさまった

台所やストーブなど火の始末をしましょう。避難の時は、ブレーカーを切り、ガスの元栓を閉めましょう。



#### 5分 〜 10分

#### 家族の身の安全を確認、確保

- ・家族の安全の確認、確保
- ・災害情報、避難情報の入手
- ・避難のための出口の確保
- ・ガラス片や転倒家具の注意



#### 10分 〜 半日

#### 隣近所の安否確認、助け合い

- ・倒壊家屋や転倒家具の下敷きになっている人の救出
- ・火災発生時の消火活動
- ・けが人の救護



#### 半日 〜 3日

#### 2、3日分は自分でしのご

地震発生後数日間は、水道、ガス、電気、電話等ライフラインをはじめ、食糧の供給が途絶えます。

2〜3日は自分でしのげるように、生活必需品(非常用品)を備えておきましょう。



# 津波、高潮災害について

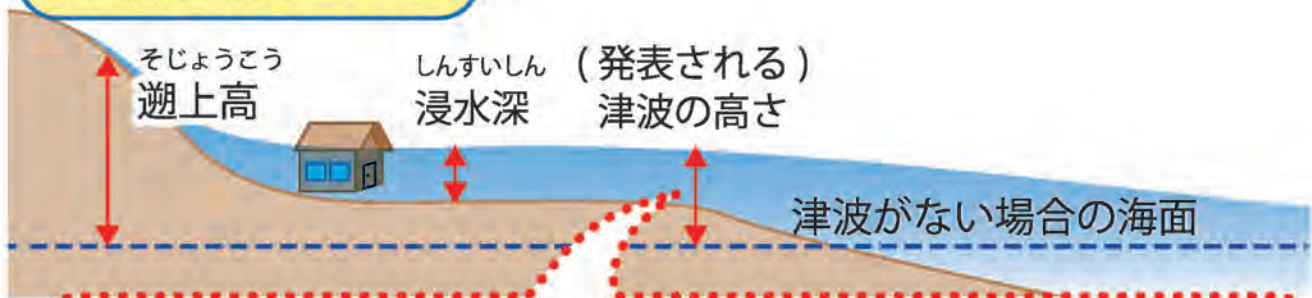
## 津波警報・注意報の種類

種類	発表基準	発表される津波の高さ		想定される被害と取るべき行動
		数値での発表 (津波の高さ予想の区分)	巨大地震の場合の発表	
大津波警報	予想される津波の高さが高いところで3mを超える場合。	10 m超 (10m<予想高さ)	巨大	木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれます。  沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。
		10 m (5m<予想高さ≤10m)		
		5 m (3m<予想高さ≤5m)		
津波警報	予想される津波の高さが高いところで1mを超え、3m以下の場合。	3 m (1m<予想高さ≤3m)	高い	標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生します。人は津波による流れに巻き込まれます。 沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。
津波注意報	予想される津波の高さが高いところで0.2m以上、1m以下の場合であって、津波による災害のおそれがある場合。	1 m (0.2m≤予想高さ≤1m)	(表記しない)	海の中では人は速い流れに巻き込まれ、また、養殖いかだが流失し小型船舶が転覆します。  海の中にいる人はただちに海から上がって、海岸から離れてください。

## 津波警報・注意報と避難のポイント

- ・ 震源が陸地に近いと津波警報・注意報が津波の襲来に間に合わないことがあります。強い揺れや弱くても長い揺れを感じたときは、すぐに避難を開始しましょう。
- ・ 津波の高さを「巨大」と予想する大津波警報が発表された場合は、東日本大震災のような巨大な津波が襲うおそれがあります。直ちにできる限りの避難をしましょう。
- ・ 津波は沿岸の地形等の影響により、局所的に予想より高くなる場合があります。ここなら安心と思わず、より高い場所を目指して避難しましょう。
- ・ 津波は長い時間くり返し襲ってきます。津波警報・注意報が解除されるまでは、避難を続けましょう。

## 津波予報区とは



地震が起きて津波のおそれがある場合は、予想される津波の高さにより、「津波注意報」、「津波警報」、「大津波警報」が津波予報区ごとに発表されます。

なお、発表される「津波の高さ」は、海岸付近での海面の高さのため、場所によってはこれよりも数倍高くなる場合があります。

また、満潮時や大潮の時も注意が必要です。